

## 審議結果

|          |   |
|----------|---|
| 会 議 名    | 第3回盛人大学運営委員会  |
| 開 催 日 時  | 令和8年1月28日(水) 14時00分から14時55分   |
| 開 催 場 所  | 川口市立かわぐち市民パートナーステーション会議室1・2   |
| 出 席 者    | 松本委員長、仲川副委員長<br>中本委員、高川委員、竹内委員、瀬切委員<br>竹内課長、下田課長補佐、宮田主任、石井主事、金田主事補                                      |
| 議 題      | 1 開会<br>2 議事<br>(1) 報告事項<br>ア 令和8年度開講の新コースについて<br>(2) 協議事項<br>ア 今後の新コースの提案と決定までの流れについて<br>3 その他<br>4 閉会 |
| 公開／非公開の別 | 公開  |
| 非公開の理由   | —   |
| 傍聴人の数    | 0名  |
| 会 議 資 料  | 資料1 令和8年度盛人大学ITコミュニケーションコース<br>資料2 新コースの提案と決定までの流れ<br>資料3 社会教養コースの現状について                                |
| 審 議 経 過  | 別紙のとおり  |
| そ の 他    | —   |

## 審 議 経 過

### 1 開会（14 時00分）

事務局 配布資料について説明。

委員長 挨拶

事務局 これ以降の進行については、盛人大学運営委員会設置要綱第6条第1項の規定により松本委員長に議長をお願いする。

なお、委員定数9名のところ、出席委員数6名で過半数に達しているため、盛人大学運営委員会設置要綱第6条第2項の規定により本委員会が成立していることを報告させていただく。

議 長 規定により議長を務める。委員の皆様の慎重かつ積極的な審議とスムーズな議事進行への協力をお願いする。

ここで本日の委員会の議事録署名委員を決定する。2名の署名が必要となり、毎回委員長が署名を行う。もう1名の署名人は名簿の順番で、高川委員をお願いすることとしてよいか。

委 員 （異議なし）

議 長 それでは今回の議事録署名委員は、高川委員をお願いする。

本日の傍聴希望者はどうなっているか。

事務局 「川口市附属機関等の会議公開に関する要綱」に基づき、会議開催について事前公開したところ、傍聴希望者はなし。

### 2 議事

#### （1）報告事項

##### ア 令和8年度開講の新コースについて

議 長 （1）報告事項 ア 令和8年度開講の新コースについて事務局に説明を求める。

事務局 2 議事 (1) 報告事項 ア 令和8年度開講の新コースについて説明する。

1 ページ資料1 令和8年度盛人大学 I T コミュニケーションコースをご覧いただきたい。

令和7年8月開催の第2回運営委員会にて、令和8年度より開講する I T コミュニケーションコースの講座内容に関するご意見をいただいた。

その後、講師および運営スタッフと協議した結果、資料記載のとおり講座内容を一部改訂した。色のついている箇所No. 3～7が変更点となる。

具体的には、W o r d や E x c e l などのツールの使用方法に関する講座から、L I N E や G o o g l e フォームなど、社会貢献活動に直接活用できる内容に変更した。詳細はお手元の資料をご確認いただきたい。

また、講義内容を分かりやすくする工夫が必要とのご指摘を受け、改善案として来年度の募集案内に各講座の講座概要を加えることを検討している。

講座概要については既に各コースから提出を受けており、現在その記載方法について業者と協議中である。

次に、講師謝礼金について報告する。

I T コミュニケーションコースでは、アシスタントにも謝礼金を支払うため講師謝礼金の上限額を25万円としてよいか前回の委員会でお諮りしたが、他コースとの公平性の観点から講師と調整し、本コースも他コース同様謝礼金の上限額を20万円としたことを報告する。

最後に、使用する会場について報告する。

本コースでは、メディアセブンのコミュニケーションルームを使用する。このことについて、全日程における部屋の予約が完了したため、受講生から徴収する会場費を3,500円とする。なお、会場費に余剰が生じた場合は返金対応を行う。

令和8年度開講の新コースについて、報告は以上である。

議長 今回の説明に対して、質問や意見はあるか。

委員 (特になし)

議長 質問や意見がなければ、報告事項は以上でよろしいか。

委員 (異議なし)

## (2) 協議事項

### ア 今後の新コースの提案と決定までの流れについて

議長 (2) 協議事項 ア 今後の新コースの提案と決定までの流れについて事務局の説明を求める。

事務局 2 ページの資料 2 新コースの提案と決定までの流れをご覧ください。

令和 6 年 1 2 月開催の盛人大学実行委員会では、提案者から事務局に相談をいただき、内容について詳細を確認したうえで実行委員会への報告はせず、運営委員会に諮るという流れを説明した。図の左側の①～③の流れである。

この流れについて、実行委員会にも諮ったうえで運営委員会に諮るべきとの意見があり、図の右側の①～④の流れとして良いか伺いたい。

なお、提案者には実行委員会と運営委員会に参加していただき、説明と質疑応答を行う予定である。

加えて、今後提案のあったコースを全て受け入れることは、会場や予算の観点から現実的ではないと考えられる。現在、新コースの I T コミュニケーションコースを含め、10 コース存在しているが、コース数の上限などの制限を設けるかどうかについて、ご意見をいただきたい。説明は以上である。

議長 今の説明に対して、質問や意見はあるか。

委員 流れについては提案のとおりでよい。

コースの上限について、現状を踏まえ、どのような理由でどのくらいの数であれば開講可能という数字はあるか。

事務局 来年度より開講するITコミュニケーションコース以外は基本的にかわぐち市民パートナーステーションで開講されている。予算と今後の運営方法にもよるが、現実的には開講場所等を鑑み、10～15コースの間が理想であると考え。

また、大学祭においても、現状と同じかわぐち市民パートナーステーションでの開催となった場合、全コース同時に発表を行うことは難しいと考えられる。

以上の観点から、15団体以内が望ましいと考えている。

議長 過去で1番多かった時は何コースあったのか。

事務局 現在の9コースが1番多い数字となり、平成27年度から変更はない。

委員 現在は概ね月曜日に開講しており、空いている時間は第2・4月曜日の夜間のみのため、コースを増やすとしても1～2コース程度と考える。

委員 新コースの提案があった場合、なんらかの方法で協議されるのか。

コースの上限数に達したからと断るのでなく、市民のために魅力のあるコースを提供するという主旨の基、新コースを検討し、場合によっては既存のコースであったとしても選定することも考えられるがいかか。

事務局 運営委員会だけでなく、実行委員会でも話題に上がっており、募集定員を下回っているコースや受講料収入と講師料支出の割合が80%以下のコースも存在する。

また、盛人大学の学旨である、社会貢献活動を行う人材の育成についても、社会貢献活動になかなか結び付かないコースもある。

以上の点等も鑑み、既存のコースを継続しながら新コースを設立していくのか、または既存のコースと新コースの案を比較し、既存のコースと新コースの入れ替えを行うなども検討していかなければならないと考える。

委員 盛人大学の対象は50歳以上であるが、世間では65歳まで働けるのが現状である。各コースの講義日が概ね月曜日であり働き世代が多い中で、月曜日は週の始めであるため、なかなか講義に参加できないと思われる。近年の受講生の平均年齢を見ても、最低年齢が上がっている。以前並木で講義を行っていた際は主に土曜日に

講義を行っていた。

川口市の人口の約4割が50歳以上と言われているが、卒業生は延べ約3,400名であり盛人世代の方はまだ多くいる中で、受講したことがない方への周知ができていないと感じる。

先ほど事務局も説明していたように、定員割れしているコースも多く存在し、理由は一概には言えないが、コースの検討をしていく必要があると思う。

副委員長 盛人大学開講当初や並木で開講していた際は、ある程度受講生の要望に沿うように時間や場所を選んでいたが、キャンパスがパートナーステーションに移ってからは休所日に開講することになり、場所や日時は運営側の都合になった。働いている方の中で月曜日が休みの方は少ないと思われるが、そのような状況で月曜日に開講するとなると、月曜日が休みの方、もしくは退職した方に限られてしまうと思う。パートナーステーションで開講し続けるのであれば、時間と日時の制約は変えようがない。市民からの要望が多い場合は、将来可能であれば別の場所を検討していくことにより、盛人大学のさらなる発展と飛躍のきっかけになるのではないかと。

以前もお話させていただいたが、盛人大学の成り立ちは、盛人式を行った際に約100名のスタッフが集まり、このメンバーで別の事業を行いたいということで、当時の市職員と相談をし、スタッフ自らが講師となり、受講生を募集して1年間で数回、講座を行ったのが始まりである。最初の講義は環境をテーマにした内容であった。環境のテーマと言っても、身の回りの環境、地球の環境、宇宙全体の環境といった、さまざまな切り口で環境の講座を行った。

よって、コースが多い少ないではなく、なにをテーマにするのか、なにができるのかを考えて、今ある9コースも、専門的ではなく、もっと幅広い内容にして、きっかけのひとつにしてもらい、専門的なことを学びたい場合はさまざまな機関を利用していただくという、あくまで盛人大学はそのきっかけづくりの場となることが最も大切であり、その上で学んだことを自分だけのものにするのではなく、社会貢

献に繋げることが重要であると考えてる。

また、運営委員会と実行委員会の役割は明らかに異なるため、しっかりと考えて、実行委員長や事務局より、実行委員会と運営委員会の違いについて説明していただき、理解いただきたい。

運営委員会は、盛人大学の発展はもちろんのこと、補助金で運営しているということ念頭に、市民と市とともに実施していけるかを検討し判断していく委員会であると考えてる。運営委員会では実行委員が盛人大学の運営を実行する前の段階を判断していくため、受講料等も含めてコースについて検討していくのが運営委員会である。よって、先ほど説明があった、新コースの提案と決定までの流れについて、運営委員会の前に実行委員会を入れて、実行委員会で審議や結論を出されてしまうと、実行委員会と運営委員会で異なる意見になった場合、実行委員会の意見を否定することにも繋がるため、実行委員会で協議をすることは構わないが、結論を出すことはやめていただきたい。

コース数については何コースあってもよいと思うが、先ほどもお伝えしたとおり、開講場所と時間に制約があるため、今後コースを増やしていくのであれば、運営委員会で検討していく必要があると思う。

議 長 副委員長より意見があった、運営委員会と実行委員会の関わり方について、事務局いかがか。

事務局 資料2について、右側の①から④の流れは、新コースを提案し決定する流れを示しているものであり、③の実行委員会で可否を問うものではない。あくまで実行委員会では情報を共有する程度にとどめ、運営委員会で審議し決定していただく。

議 長 コース数についても、開講場所を変更することは現時点では難しく、今後もパートナーステーションで開講することを考えると10コース程度が適正であると考えられる。コースの上限数を決定するものではないが、10コースが1つの目安数となり、その中で講義内容やコースについて、その都度検討し、議論していくことに

なるかと思うがいかがか。

事務局 コースを増やすために必ず既存のコースを減らさなくてはならないというわけではない。コースが増えるにあたり、会場の確保が難しい場合は、会議室の利用状況を確認し、調整していくことも可能であるかもしれない。しかし、会場には限りがあるため、それを踏まえて今後検討いただきたい。

議長 受講生が集まらない等、コース運営に疑義が生じた場合は、今後見直しをしていきたい。

事務局 コースの名前を変更するだけでもかなり変わると思う。

また、前回の委員会にて、募集案内に各講座の概要を示したほうがよいとの意見を受け、来年度の募集案内に講座概要を明記し配布する予定であるため、受講希望者の増加が見込めるかもしれない。

議長 事務局の意見を受け、なにかあるか。

副委員長 受講希望者の増加を期待する。

委員 ITコミュニケーションコースについては事務局より説明を受けたが、提案者がいたのか。

委員 前期の運営委員会にて、新しいコースを作ったほうがよいのではないかと意見が出て、事務局より新コースの内容について提案があった。

委員 資料内には提案者（団体等）とあるが、新コースを決定する際に、募集を募るなど予定しているか。また、どのように進めていくのか。

事務局 卒業生や各コースの実行委員より新コースについての提案がされると想定される。提案を受けた場合は事務局で提案者に聞き取りを行い、盛人大学の主旨を説明した上で話を進めていく。

委員 公募をするわけではなく、卒業生や盛人大学の関係者からの意見を吸い上げて進めていくという認識でよいか。

事務局 その流れが概ねであると想定しており、公募を行う予定はない。

委員 盛人大学の関係者より意見を募ると、凝り固まってしまう可能性もあるため、今後公募も視野に入れたほうがよいかもしれない。

事務局 事務局でも市が主催している講座について調査していくべきであると考えている。

委員 50歳以上を対象としているが、現在の50代の多くは仕事をしている方が多く、月曜日に参加することが難しい方も多くいると思われるが、受講生の年齢の統計は取っているのか。

委員 実行委員会で年齢層の報告は受けている。年齢層が高めのため、すでにボランティア活動をされている方も多く受講している。

川口では青少年ボランティア育成事業として、小学生から概ね25歳までの方を対象にボランティア体験の場を提供しているが、26歳から49歳までの募集は行っていないため、年齢を下げてターゲットを増やすことも今後検討していくのもよいかもしれない。

事務局 コースによって異なるが、平均年齢が70代や60代半ばのコースが多い。

委員 今後、働いている方にも参加してもらいやすくするための工夫等は考えているのか。

事務局 曜日変更も視野に入れている。しかし、パートナーステーションではすでに定期的に利用しているボランティア団体が多いため、ボランティア団体と調整し、どの程度のコースであれば曜日を変更できるかを今後検討することは可能であると考えられる。

委員 講義の日数が多いため、参加したくても参加できない方が多くいると思う。定員に達していないコースが多くあるとの説明があったが、講義内容ではなく、開催日時が合わないために受講希望者の申込みが少ないのであれば、曜日の変更は今後検討していただきたい。

委員 以前は土曜日や日曜日に開講されていたため、現役世代を取り込むために曜日の変更を検討していただきたい。また、パートナーステーション以外でも土日に講義が行

える場所があれば、それも検討いただきたい。

委員 市内の公共施設も、土日は多くの方が利用している印象がある。

事務局 パートナーステーションでは毎週土曜日の午前中は日本語教室を行っているなど、土日は多くの団体が毎週利用している。今後土日を利用している団体と交渉していくべきかも含めて検討していきたい。

委員 3点質問させていただく。

1点目は新コースの提案から決定までの流れは令和8年度から実施するのか。

2点目は提案者（団体等）とあるが、社会情勢を考慮し、市から新コースの発案がされることは想定しているのか。

3点目は新コースの提案があった場合、事務局、実行委員会、運営委員会ではそれぞれどのような役割となるのか。

事務局 1点目について、本日こちらの案で承認いただけた場合は令和8年度より実施していく。

2点目について、市側から新コースを提案することは現時点では想定していない。

3点目について、事務局では新コース設立に関しての相談や提案を受け、聞き取りを行う。盛人大学の主旨に沿った内容のコースであり実現が可能であると判断できた際は実行委員会で説明し、情報の共有と併せて、意見やアドバイスをいただく。そして最後に運営委員会にてカリキュラムの内容やコースの運営について協議し決定していただく。

委員 実行委員会は9コースの代表スタッフが出席している。実行委員会では新コースのアドバイスや、他のコースと講義内容が被っていないかなどを確認し調整していきたい。そして運営委員会に諮り、審議し決定していきたい。

議長 ほかに意見等あるか。

委員 （特になし）

議長 それでは新コースの提案から決定までの流れについて、決定していく。

初めにコースの上限数については、検討の余地がまだあると思われるため、引き続き検討していきたい。

新コースの提案から決定までの流れについては事務局案のとおりとし、令和8年度より実施してよいか。

委員 (異議なし)

議長 それでは令和8年度より事務局案のとおりを実施する。

### 3 その他

議長 事務局から何かあるか。

事務局 2点ある。

1点目、社会教養コースの現状について説明する。

3ページ資料3 社会教養コースの現状についてをご覧いただきたい。

はじめに、経緯と現状について説明する。

盛人大学の運営は、実行委員会を中心に、コースごとに様々な団体の協力を得ながら実施している。これには、既存の団体に加え、盛人大学を契機として新たに設立された団体も含まれている。

社会教養コースについても、当初は団体による運営を行っていたが、平成26年頃から前年・前々年度の卒業生にスタッフとして協力を依頼する形式に移った。

その変化に伴い、事務局より受講生に対して団体設立を社会貢献活動の一環として提案してきたものの、現時点では団体設立には至っておらず、卒業生に依頼する形での運営が継続している。

しかし、今年度の受講生から来年度のスタッフを募集したところ、次年度のカリキュラムの作成や実行委員会への参加といったコース運営にご協力いただける方が2名のみとなった。

この結果をスタッフに共有したところ、来年度の運営はカリキュラムがすでに決

まっているため可能であるが、再来年度の運営は難しいかもしれないという意見をいただいた。

スタッフの作業内容は資料に記載されているとおりで、特に下線が引かれている作業は負担が大きいものである。

今年度のスタッフと事務局では、コースを運営するには最低でも4名以上の協力が必要だという認識を共有している。

受講生から、社会教養コースを運営する団体を立ち上げたいとの話が挙がっているが、現状メンバーが集まっておらず、実際に運営を依頼することが可能かどうかについて、注視していく必要があると考えている。

以上のことから、次回の運営委員会にて、運営課題の解決策についてご意見をいただく場合があるが、その際はよろしく願います。

2点目は今後の委員会の予定についてである。

次回の第4回盛人大学運営委員会は5月頃を予定しており、日程は後日連絡させていただく。説明は以上である。

議 長 質問や意見はあるか。

委 員 (特になし)

議 長 事務局より逐一報告いただき、今後必要があれば検討していきたい。

#### 4 閉会 (14時55分)

会議の内容については、以上のとおりです。

令和8年1月28日

盛人大学運営委員会委員長

(松本委員長署名)

.....

盛人大学運営委員会委員

(高川委員署名)

---